

委員会報告書【要約】

1. 会議名称 第3次鈴鹿市地域福祉活動計画評価推進委員会
2. 開催日時 平成30年6月19日(火)午後1時30分～3時40分
3. 開催場所 鈴鹿市社会福祉センター 2階 中会議室
4. 出席者 評価推進委員 10名 (貴島日出見・麻生洋一郎・伊藤顕誠・吉原勝範・
亀田佳子・千草竜胆・佐藤隆一・黒田卓也・
加藤 晋・森川洋行)
社協事務局 16名 (渥美事務局長・松井法人担当次長・
中川指定管理担当次長・樋口地域福祉課副参事・
澤井指定管理施設課長・西居企画総務課長・
河北企画総務課長補佐・中西地域福祉課長補佐・
佐藤総務管理GL・小川地域福祉GL・
古市ベルホーム所長・田中権利擁護GL・
長谷川・廣田・真弓・服部)
鈴鹿市 2名 (坂 鈴鹿市健康福祉政策課長・伊藤 総務GL)
5. 欠席者 評価推進委員 2名 (吉田四郎・田中彩子)
6. 会議内容
 - 進行 (企画総務課 西居課長)
 - 挨拶 (鈴鹿市社会福祉協議会 渥美事務局長)
 - 本配布の資料確認と議長選出について
事務局(西居)より配布資料の確認をし、評価推進委員会設置規程第6条に基づいて委員長が議長となることを説明する。
 - 議題1「第3次鈴鹿市地域福祉活動計画評価推進委員会 委員変更について」
事務局(西居)より委員変更(2名)について説明する。また、任期については前任者の残任期間とすることを説明する。
【新評価推進委員】 吉原勝範氏(鈴鹿市ボランティア連絡協議会選出)
森川洋行氏(鈴鹿市社会福祉事務所選出)
 - 議題2「第3次鈴鹿市地域福祉活動計画に関わる事業評価について」
事務局(河北)より、評価一覧表への記入依頼と全体の事業評価基準について説明する。
続いて事務局(中西、真弓、古市、田中)より、資料(事業評価シート)とパワーポイントに基づいて、基本目標1及び基本目標2の事業内容や評価について説明し、各委員に意見を求める。(議題3「質疑応答」も含む)

【委員の意見・質問、および事務局の返答内容】

亀田委員：計画 1-1 福祉のこころを育てるについて、身体障がいへの理解だけでなく、知的障がいや発達障がいへの理解について具体的な取り組みについての質問。

事務局(中西)：発達障がいについては実施できておらず、今後、方法も含めて検討材料とすることを返答。

亀田委員：計画 1-2 子ども向け認知症サポーター養成講座の開催について、講座を終了しサポーターになった子どもたちの具体的な構想についての質問。

事務局(中西)：子供たちへのフォローアップができていない現状と、小学生が認知症のお年寄りを支援する実例などを紹介。また、新たに中学生に対しての講座を実施することを説明。

貴島委員：小学校に加えて中学校でも実施することを確認。

亀田委員：計画 2-7 子ども救済ネットワークについて、「鈴鹿子ども支援ネットワーク」を例に相談窓口の明確化に至っていないことへの質問。

事務局(古市)：子育てに関する会議等に参画できていない状況と個別支援や会議等で意見を聴取し取り組んでいくことを返答。

亀田委員：計画 2-6 地域コミュニティの活動支援について、子ども食堂の取り組みへの具体的な考えについて質問。

事務局(古市)：各地域における問題もあわせて、今後の事業に反映させていくことを返答。

加藤委員：計画 1-2 子ども向け認知症サポーター養成講座について、中学校に広げる効果が得られるか疑問。企業対象に実施することへの意見。

計画 2-2 地域力を高めるあいさつ運動について、モデル地区で実施することへの意見。

計画 2-5 ひきこもり総合相談窓口について、対象と支援内容について質問。

事務局(中西)：小学生は授業時間の関係で伝えきれていないところがあり、中学生には具体的な話ができるようにしたいことを返答。また、地域で活躍されている方との関係性が不十分であり、4部会と一緒に議論を進めていきたいことを返答。

(古市)：アプローチができていなく進んでいない状況とモデル地区も含めて意見を聞きながら進めていくことを返答。

ひきこもり問題の現状説明と、各年代層に応じた支援や各関係機関窓口の情報共有などをできるように進めていくことを返答。

加藤委員：ひきこもりに該当する人数の把握について質問。

事務局(古市)：人数は把握していないことを返答。

加藤委員：ひきこもりの情報についての質問。

事務局(古市)：高齢者支援時におけるその子どもや障がい関係機関のかかわりで把握していることを返答。

議長(貴島委員長)：相談窓口を繋ぐコミュニティソーシャルワーカーの役割について意見。

伊藤委員：福祉サービス提供事業所として、ひきこもり支援に対する苦悩や、ネットワークを通じて福祉サービス提供の提案ができることについて意見。

議長(貴島委員長)：ひきこもりについての統計について報告。

麻生委員：計画2-3 情報伝達の仕組みづくりについて、牧田地区の取組みを報告し、人材の発掘や育成についての具体的な現状について質問。

事務局(田中)：鈴どもの活動を例に、参加者が発足当時より減少していることを報告。当事者の意見も取り入れ、参加しやすい環境づくりを整えて、一緒に地域を盛り上げていける活動を支援することを返答。

■ 議長より各委員へ、基本目標1と基本目標2の評価について、別紙評価一覧表への記入を依頼する。

■ 記入後、議題2「第3次鈴鹿市地域福祉活動計画に関わる事業評価について」の事務局の説明を求める。

事務局(小川、長谷川、佐藤、廣田)より、資料(事業評価シート)とパワーポイントに基づいて、基本目標3及び基本目標4の事業内容や評価について説明し、各委員に意見を求める。(議題3「質疑応答」も含む)

【委員の意見・質問、および事務局の返答内容】

吉原委員：計画3-5 災害ボランティアコーディネーターの養成について、この養成講座地域版と以前開講した災害ボランティアコーディネーター養成講座との違いや、講座開催回数について質問。

事務局(小川)：以前開講した災害ボランティアコーディネーター養成講座は、鈴鹿市全体を対象として全体の話や訓練への参加などが基本であり、この地域版については、地域のボランティアコーディネーターが鈴鹿市災害ボランティアセンターにつなぐ役割として、2回コースで実施していることを返答。

麻生委員：計画3-1 見守り支援ネットワークの構築について、自治会における徘徊者搜索の仕組みを紹介し、加佐登地区と桜島地区での訓練に自治会長が参加しているかを質問。

計画3-5 災害ボランティアコーディネーターの養成について、自治会や防災隊の現状を報告し、災害発生時の連絡方法について質問。

事務局(小川)：加佐登地区については、自治会長が中心となり、民生委員や福祉事業所も参加して、地域一体となって実施したことを返答。桜島地区については、第1段階として民生委員中心で実施し、次年度以降に地域一体で取り組んでいくようにすることを返答。

災害発生時の細かい取り決めはないが、1年前の台風の伊勢での経験から特に一人暮らし高齢者への支援を行うため、自治会長も含め民生委員中心に災害ボランティアセンターへニーズをいただく仕組みであることを返答。

吉原委員：見守り支援ネットワークの構築で、このような取り組みを実施していたことを自治会連合会の会長が知らなかったことについて麻生委員に確認し、情報として流していただくことを要望。

麻生委員：訓練参加に自治会の名前がなかったこと、各地区からの報告もなかったため、質問をさせていただいたことを報告。

加藤委員：計画3-3地域におけるふれあい拠点づくりについて、高齢者の関わりが多いが、拠点に若い世代でスピード感をもったファシリテーターの役割を担う人材がいることについて質問。

計画3-5災害ボランティアコーディネーターの養成についても、若い世代の方が少ないことについてどのように思っているのかを質問。

事務局(小川)：サロンについては介護予防普及啓発事業で65歳以上が対象である現状と今後、空き家を使った地域の拠点づくりについて、子どもから高齢者まで地域の相談ができる拠点や若い世代が集える拠点が必要であることを返答。

災害ボランティアコーディネーターについても、高齢の方が中心となっている現状を返答。また、天名地区での参加状況や災害ボランティアセンター連絡会のJCの参加、今後、鈴鹿大学と鈴鹿医療科学大学の学生の講座への受講など協力の輪を広げていくことを返答。

加藤委員：4部会について、検証されていないことや今後の活動や取り組みへの方法などについて意見。若い世代が活躍できるように希望する発言。

事務局(佐藤)：先日開催した4部会で同意見をいただいたことや事務局で協議したことを踏まえて、PDCAができていないことや、今後の目標設定やビジョンを明確にして取り組むことを返答。

議長(貴島委員長)：4-2 広げよう！地域をつなぐかりんちゃん募金について、寄付付き商品の内容について質問。

事務局(佐藤)：寄付付き商品について、今年度から取り組む事業として、菓道会と協議して現在5店舗の協力を得られることを報告。お菓子の売り上げの何パーセントを寄付として募金につながる仕組みであることを返答。今後、年間の数値目標を決めて取り組む準備中であることを返答。

議長(貴島委員長)：現在のふるさと納税を例に、そのようになることを期待する発言。

黒田委員：例年10月に開催される「ふれあい広場鈴鹿」にすべての事業が集約されているが、実施結果に掲載がないことやふれあい広場鈴鹿の活用について質問。

佐藤委員：計画や評価について目標値がないことや財源、費用対効果も含めた評価が必要であることを次回から検討することを希望する発言。

事業の実施主体が明確でないため、理解しやすくするため実施体制を表記することを希望する発言。

財源についても表記することへの希望と実際の財源構成について質問。

事務局(渥美)：地域福祉活動計画は、社会福祉協議会のみ計画ではなく、地域福祉に関わる人達がどのように動くかという計画であることを説明し、実施も地域の方が運営しているのが基本であることを返答。実施主体も明記できるようにしていくことを返答。

財源は、市補助金、共同募金、社会福祉協議会自主財源、それぞれが持つ財源を有効活用していることを返答。

社会福祉協議会の事業を展開する「社会福祉協議会基盤強化計画」と「地域福祉活動計画」の違いもあるので、ふれあい広場の位置づけや発信について実行委員会の中で、ふれあい広場が持つ意義、役割、広報などについて議論することを期待する返答。

福祉関係者だけでなく、様々な方からの意見をいただき、社会福祉協議会の事業や地域福祉推進につなげていくことを返答。今後も地域福祉活動計画の評価など事務局へいただくことを依頼。

■ 議長より各委員へ、基本目標3と基本目標4の評価について、別紙評価一覧表への記入を依頼し、記入後に事務局が回収する。

■ 議題4「地域協議会について」

事務局（河北）より、今回は対象となる社会福祉法人がなかった趣旨を説明する。

■ その他について、事務局（河北）より説明をする。

- ・今回提出の評価一覧表の平均を委員会評価とし、後日郵送で委員へ報告する。
- ・本日の委員会結果や会議録については、鈴鹿市社会福祉協議会ホームページなどで公表する予定であることを伝える。
- ・次回の委員会については、平成30年度事業終了後の6月頃に開催を予定していることを伝える。

■ 終了挨拶（企画総務課 西居課長）